

公共トイレの設計や管理に関わる皆さまへ

公共トイレ ハンドブック

認知症 編



はじめに

2025年には高齢者の約5人に1人が認知症になると推測されています（厚生労働省）。2015年に策定された新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～）では、公共交通施設や建築物等のさらなるバリアフリー化の推進が謳われています。一方、バリアフリー法（2006年）では高齢者への配慮を推進しているにも関わらず、認知症のある人を考慮したハード面の環境整備は十分ではありません。

公共トイレについても、「まちの中でトイレを見つけられない」「ドアや鍵の閉め方がわからない」「便器洗浄ボタンが分からず水を流さずに出てきてしまう」などの不便や不安を感じる声が多くありません。

高齢者は加齢とともに排泄の課題が多くなり、外出時に使えるトイレの有無が、外出の機会を大きく左右します。このパンフレット「公共トイレハンドブック 認知症編」は、認知症高齢者とその家族へのアンケート調査及びインタビュー調査*と、モックアップ（トイレの個室を再現した装置）を使った検証実験*の結果をもとに作成しています。

※2017年度に（社福）渋谷区社会福祉事業団 渋谷区あやめの苑・代々木のデイサービス利用者及びその家族（有効回答者62名）へのアンケート調査、（公社）認知症の人と家族の会の会員8名にインタビューを実施し、トイレ利用の困りごとを伺いました。また、デイサービス利用者13名に鍵と便器洗浄ボタンの検証にご協力いただきました。

2018年11月

野口祐子、西村 顕、高橋儀平

認知症の特性を知ろう！

慣れていないはずのトイレの
カギのかけ方がわからない。
【認知障害など】

水を流すボタンが分からず
呼び出しボタンを押した。
【理解・判断力の障害など】

トイレが終わった後、
来た道や待ち合わせ場所がわからず、
迷子になる。【見当識障害など】



中核症状と周辺症状

認知症の症状は、主に中核症状と周辺症状（行動・心理症状）に分けられます。中核症状には、記憶障害、見当識障害、理解・判断力の障害、実行機能障害、失語、失行、失認などがあります。周辺症状は、中核症状をベースに現れますが、そもそもの性格、環境、人間関係などが影響し、症状の現れ方は人によって様々です。周辺症状には、抑うつ、興奮、不安・

焦燥、睡眠障害、幻覚、妄想、暴言・暴力、多弁・多動、徘徊、異食・過食・拒食、失禁などがあります。例えば徘徊や妄想といった周囲から見て問題だと思われがちな周辺症状は、その人なりの理由があり、その原因となる環境や人間関係を変えることで症状が改善される可能性があります。それらの症状が現れた時、環境の側には問題はないかを見直す必要があります。

【実話エピソードを4コマ漫画で再現】

本人も家族も大変困っています！

夫婦で買い物中・・・



母と息子で旅行中・・・



役立つ工夫①

男女共用トイレ

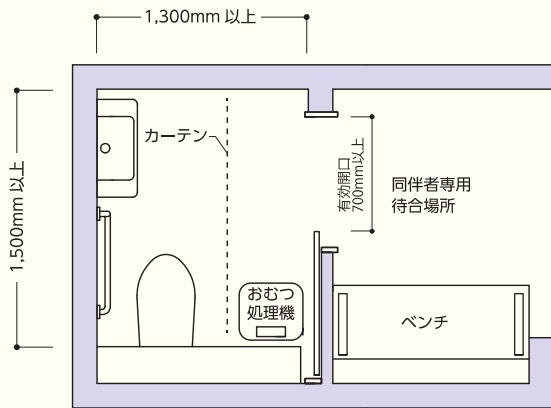


図 同伴者と利用可能な男女共用トイレ案

駅や商業施設などで、夫婦や異性の親子などが別々に男女別トイレに入った後にはぐれてしまい、警察に捜索願を出したり、「介護中」の札を首から下げ、女性トイレに入る妻を介護するなど、同伴者（介護者）が異性だったために、男女別のトイレを利用して苦労したり、深刻



なトラブルを経験した人が少なくありません。車椅子トイレほどの広さは必要ありませんが、男女が一緒に入ることができる大きめのトイレがあれば解決できることがたくさんあります。

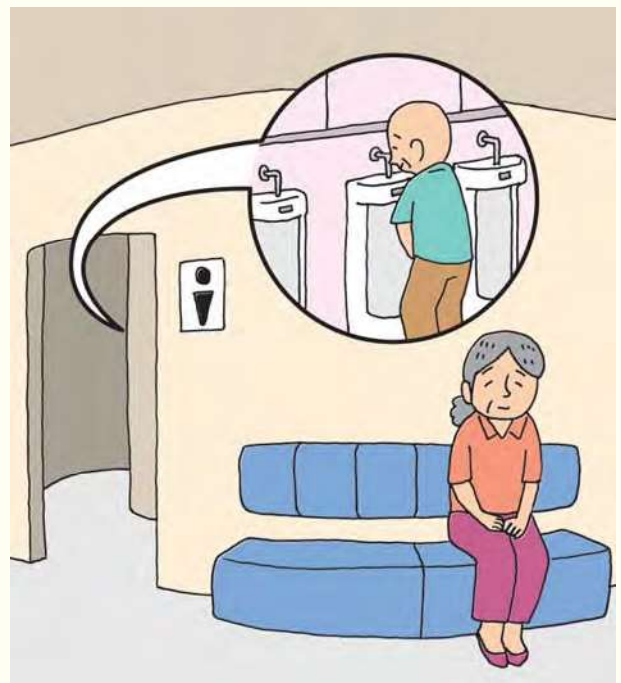
役立つ工夫②

待合場所（ベンチ）



タカシマヤゲートタワーモール（愛知県）写真提供：（有）設計事務所ゴンドラ

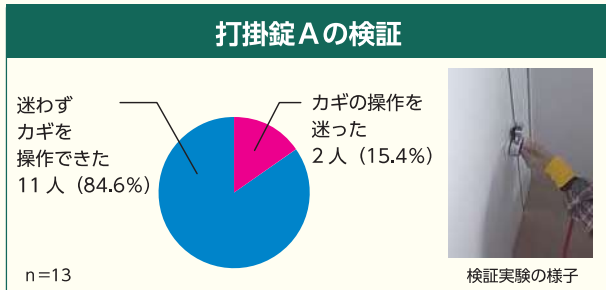
商業施設の男女別トイレの前で、異性の同伴者が立っているのは、怪しまれることもあります。そんなとき待合場所があると抵抗なく待っていられます。また、認知症の人が男女別トイレに入った後、はぐれてしまうトラブルを防止するために、落ち着いて同伴者を待つことができる待合場所はありがたいです。



なお、ショッピングセンターでは混んでいる時間帯によっては通路などに置いてあるベンチはすぐに一般の人が利用してしまい、実際に利用したい時に利用できない場合が多いので、左上の平面図（同伴者と利用可能な男女共用トイレ案）のように同伴者専用の待合場所があれば扉の鍵をかけずに、同伴者が扉の外で見守ることができます。

役立つ工夫③

迷わないカギ



「カギを開けて外に出てください」の口頭指示の後、モックアップの開き戸に既製品のカギ（スライド錠A、スライド錠B、打掛錠A、打掛錠B）を操作する検証実験を実施。カギは4パターンを実施している。写真はその一例。

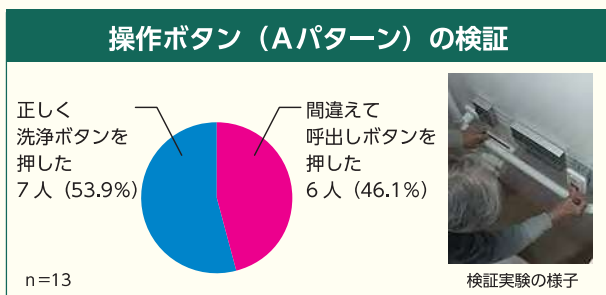
ご家族のアンケートやインタビュー調査で、認知症の人がトイレに入り、「鍵を閉めたが、開けられずに出られなくなった」、「鍵を閉めると一人では開けられないため、開けたままで、介護者が扉の外から足で押さえている。あるいは介護者が仁王立ちになって隠している」、多機能トイレに一人で入ったが、出るときに、自動ドアのボタンがわからなくなり、家族が外から「どれでも良いからボタンを押して」と言ったところ、呼出しボタンを押



してしまい、警備員が駆けつけてきた、といったエピソードがありました。公共トイレの鍵は、スライド錠（スライドするタイプ）と打掛錠（回転するタイプ）が主ですが、検証の結果、スライド錠 A、B と打掛錠 B は 13 人中 13 人、打掛錠 A は 13 人中 11 人が迷わず使うことができました。鍵は構造が単純で、使い方が簡単に想像できるものが良いでしょう。

役立つ工夫④

迷わないボタン



「水を流してください」の口頭指示の後、モックアップ壁面の既製品の操作ボタン（洗浄ボタン、温水洗浄便器のリモコン、呼出しボタンの配列）を押す検証実験を実施。操作ボタンは3パターンの組み合わせを実施している。写真はその一例。

アンケートやインタビュー調査では、「水を流す方法やボタンの位置、形が様々でわかりにくい」という意見が多数聞かれました。また、デイサービス利用者 13 名にご協力いただき、流すボタンのわかりやすさについて 3 種類（A、B、C）のボタンの検証実験をおこなったところ、正しく洗浄ボタンを押した人の割合は A：53.9%、B：



69.2%、C：84.6%と、違いが出ました。そして、3パターン（A、B、C）を通して、間違った人の約 9 割が水を流そうとして呼出しボタンを押しました。水を流すボタンは大きめでほかのボタンとは異なったわかりやすいものが望ましく、呼出しボタンは、注意書きや誤報防止カバーの設置も必要です。



欲しい設備①

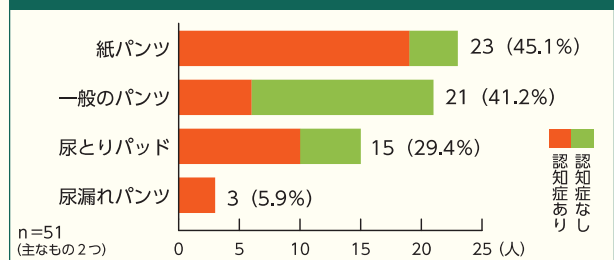
大人用おむつ 自動販売機

アンケート調査から、外出時に着用する下着は一般のパンツよりおむつ（紙パンツ）が多いことがわかりました。また、「外出先で失禁したが、替えの紙パンツを持っておらず、介護者がドラッグストアへ買いに走った」、「ドラッグストアで替えのおむつを買おうと思ったが、大きなパッケージしか売っておらず、持ち帰るのが大変だった。1枚単位で買える自動販売機があると良いのに」といった意見が複数ありました。

最近のショッピングセンターなどでは、乳児用のおむつの自動販売機がトイレの近くに置かれているのを見かけることがありますが、今後は大人用のおむつの自動販売機が必要になってくると考えます。



外出時に高齢者が着用する下着



欲しい設備②

大人用おむつ 処理機

アンケートやインタビュー調査では、「使用済みの紙パンツやおむつはズッシリ重くなり、自宅まで持ち帰るのはとても大変なので、捨てられる処理機がほしい」という意見や「男女別トイレの個室にも尿とりパッドを捨てられるゴミ箱がほしい」という意見がありました。



【研究チーム】

野口祐子（日本工業大学）

西村 顕（横浜市総合リハビリテーションセンター）

高橋儀平（東洋大学）

【お問い合わせ】

日本工業大学建築学部建築学科生活環境デザインコース

教授 野口祐子 (noguchi.yuko@nit.ac.jp)

TEL：0480-34-4111（代表）